

Q 管理職として、大事にしなければならないこと、心がけなければならないことを教えてください。

A 校長や教頭は管理者である前に教育者（実践者）でなければならない。

私が教頭になって間もない頃、報告文書等の作成に追われ、給食や掃除、休憩の時間にもパソコンと格闘していると、ベテラン教諭から「休憩する時間もなくて、教頭先生は大変ですね。」と、激励とも苦言とも思える手厳しい一言。その一言が、ハッと我に返る機会となったのでした。

掃除や給食、休憩の時間は、子どもたちが授業中には見せない素直な顔をのぞかせる機会であり、教員が直接子どもたちとの心の交流ができる（子どもを知る）教育上極めて貴重な時間でもあると思うのですが、この貴重な時間をパソコンに費やし、教育者としての道を自ら放棄していたことに気付かせてもらったのです。

私は、校長や教頭は管理者である前に、子どもたちを教育する実践者の一人であることを忘れずに、可能な限り子どもの中に身を置き、子どもを知り、子どもを教育する喜びを日々感じる事が大切であると考えています。また、毎週の朝礼等での講話においても、教育者としての立場をわきまえ、訓示ばかりでなく、内容のある話を準備し、授業と同じように子どもたちが目を開き耳を立てる工夫を心掛けたいものです。

校長にはリーダーシップとともに、指導力こそが大切

打撃コーチ、ピッチングコーチ等、各種のコーチがいるプロ野球の監督にはリーダーシップこそが大切であり、技術指導はコーチに任せることができます。しかし、専門的なコーチがいない学校においては、校長にはリーダーシップとともに、各教員が行う学習指導や学級経営においても的確な指導ができる指導力が求められているのです。教員の実践を位置付け、価値付け、方向付けのできる指導力です。

校長や教頭も、常に新しい教育の方向を見つめ、その具体的な方策を習得するとともに、各教員の実践を見守り、励まし、助け、時には厳しく指導できる力を身に付けたいものです。

校種

全校種